

ムリナリニ マタ会長 最後のメッセージ

親愛なる皆さん

2017年 7月 — 8月

世界中の数百万の信者と共にバガヴァン シュリ クリシュナの生誕記念日であるジャンマ・シュタミのお祝いに参加する時、その生涯と教えという純粋な道を通じて伝わって来る拒むことのできない神の愛と喜びに私たちの心は新たな高まりを感じずにはいられません。バガヴァット ギーターの神聖なメッセージを通じて主クリシュナはもしマーヤ(迷妄)にとらわれた自我から、私たちの内に在る魂の永遠の自由と至福に再び意識を集中させるなら何度も生まれ変わって私たちが求め続けている決して色あせることのない幸せは私たちの手の届くところに在るということに常に気づかせてくださるのです。私たちは不確かなこの世で満足を得ようとして何度も繰り返し失望を味わうことにすっかり慣れてしまいました。しかしギーターの中でクリシュナはアルジュナとそして喜びと悲しみが交互に訪れる目まぐるしい展開にうんざりしているすべての人々に対して、自我の自分の可能性を限定し、行為の結果としての業(カルマ)を生じさせる習慣を克服すること、そして私たちの魂が求めてやまないあらゆるもの^{みなもと}の源である神に従うことによってこの悪循環を断ち切る方法を伝えているのです。

この意識の方向転換は私たちが、人々が、そしてこの世が幸せに成るために私たちが貢献することのできる最大のものです。クリシュナがアルジュナに気づかせたように、自我を克服するためには瞑想という霊的な活動と物質的な世界における非利己的な活動の両方が必要なのです。瞑想の深い静けさの中で私たちがまったく別のものに変えてしまう神の存在が現実のものとして感じられ、日々の生活の中で神の存在を身近に感じることによって私たちは自我の影響に抵抗することのできる強さを身に付けることができるのです。

霊的、そして物質的な活動の両方に解放をもたらす鍵はその動機に在ります。自我が支配権を握り、その行為の結果に執着し続ける限り、私たちはマーヤ(迷妄)がもたらす喜びや悲しみのなすがままです。しかし私たちがしっかりと神に結びつき自我の為ではなく、神の為に働くなら、私たちの人生はどれだけシンプルで喜びに満ちたものに成るでしょうか。もしあなたが自分の利益のために、あるいは人から認められる為に一生懸命に働いたなら、その結果に対する不安であなたの心は休まることがないでしょう。しかしもしあなたが何か^{とうと}尊い物質的、あるいは霊的な努力を神への愛の証^{あかし}として心の中でささげるなら、たとえ同じように熱心に頑張ったとしても、その努力に対する神の祝福を確信してあなたは平常心を保った状態でその努力を続けることができるはずです。主なる神はクリシュナを通じてアルジュナに“すべての行為をわたしの中に放棄せよ！ 自我意識も期待することもなく、意識を魂に向けて集中し、思い悩むことなく戦い(行為)に従事せよ。”と

言われました。これと同じように、もしあなたが身に付いた習慣を変えたいと望み、過度にその習慣に依存する代わりに心を込めてその習慣を克服しようとする努力と共に、その習慣を神の御足にささげるなら、神の助けに対して心を開くことができるのです。瞑想をする際に結果に対する願望によって心を乱すことなく、誠実に努力を続けるなら、あなたの祈りに応えようとしておられる神の祝福をもっとたくさんいただけるようになります。

主クリシュナが勧められたように日々の霊的、そして物質的行為を常に神の存在を意識して行うことによって緊張と不満という自我の重荷は消え去り、それに代わって神としっかり結びついている落ち着きと、積極的で喜びに満ちている心が現れて来ます。そうすると、かつてあなたの心を支配していたこの世の意識はその力を弱め、あなたは揺るぎない内なる平安と神聖な幸せという魂の勝利を手に入れるのです。

神とグルの方々の聖なる愛の中で

スリ ムリナリニ マタ

Sri Murinalini Mata

親愛なるグルデヴァの霊的家族の皆さん、

私たちの敬愛する SRF の会長であり、SRF 僧団の女性の霊的指導者であったスリ ムリナリニ マタジは亡くなる前に、瞑想センターと瞑想グループ宛に 2 か月に 1 度送られる手紙の 7 月—8 月分を用意しておられました。彼女の援助と祝福は今でも私たちと共に在ります。そして敬愛するグルデヴァの普遍的な教えを実践することによって神とのより親密な関係を真剣に求めているすべての人々に対する彼女の深い思いやりの心を思い出させるものとして皆さんもこの手紙を読みたいに違いないと私たちは考えました。彼女の言葉を通じて皆さんが彼女の存在と霊的なはげましを感じ、そして彼女の聖なる愛で心の高まりを感じていただければ幸いです。

ブラザー アチャラナンダ

SRF 管理運営委員会副会長

この原稿は横浜 SRF 瞑想サークルが独自に翻訳したものです、
SRF の正式な翻訳ではありません。